

👋 手話サークル研究班 👋

～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足の趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」という気持ちを持っていただければと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、交流しながら「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月。9名のメンバーで発足。

☆2004・2005年9月の神通研集会・第1分科会「サークル」を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2006年2月現在、川崎4、横浜3、県域10、神聴連1、計18名で活動中。

～ 定例会 ～

地域サークルの様子や情報交換等を行っています。

☆1/22 2006年初の定例会 報告

・「手話研修センター」と「自転車振興会」との裁判の傍聴について。傍聴人の多さが関心の深さの表れとなり、自転車振興会への理解にも繋がっていくので、今後継続的に時間の都合の付く時は、参加していくことを確認しました。

・聴覚障害者老人ホームについて、地域サークルへ流れている情報、ろう協とサークルの協力体制、募金活動状況、地域の捉え方等について情報交換を行いました。

・その他、イベント、聴障者関連のお店についてのインフォメーションがなされました。

【次回定例会】

2月12(日) 13:00～15:00

かながわ県民センター12F・ボランティアコーナー
どなたでもお気軽にご参加下さい。

～ '05年神通研集会 第1分科会報告～

S20～40年頃まで手話は「手まね」という言葉で表され、言語ではないと思われていました。ろう者の基本的人権を主張していくために手話を広めていく運動が広がり、S45年から開始された手話奉仕員養成事業をきっかけに手話が飛躍的に広まりました。

でも、ろう者にとって運転免許取得時の適性検査、文字情報の不足等、まだまだ様々な問題に直面しています。手話を学びながら、地域の仲間としてサークルに出来ることは何か？ろう者が抱えている問題や解決方法を理解し合うことが大切です。

～サークル研究班メンバーのささやき～

某ホテルの偽装改造問題がテレビを賑わせている。身障者用客室は年に2、3回しか利用がなく倉庫にした、点字ブロックは掃除の邪魔...。そんな発言をする経営者のホテルを全国レベルの行事の時に、利用していた自分はなんとも言えない気分。一方、4月から一部が施行される障害者自立支援法は障害者の生活に大きな影響を与える大問題。でもなかなかテレビでとりあげられない...。話題性がないのかしら。
K☆E